

種名 カナムグラ
万葉時代の呼名 むぐら・葎



詠人 問答歌

万葉集卷十一 二八二五

玉敷ける家も何せむ八重葎
おほる小屋も妹し居らば

【現代訳】

玉を敷いた家も何になろう。八重葎のおおった小屋だって妻といっしょにいられるなら……

【カナムグラの解説】 クワ科の一年草

雌雄異株のつる植物。茎から葉柄にかけて鋭いとげがあり、木や電柱、ガードレール等に絡みつく。花期は8月～10月で、雄株は分枝した花茎を伸ばし、多数の淡緑色の花をつける。また雌花は、株の葉腋から花茎を伸ばし、先端に苞に包まれた穂状の花をつける。雌花は受粉後に成熟して果実となると赤紫色を帯びる。

中国大陸、台湾および日本全国の道端や荒地等の日当たりの良い場所に生育する。また好窒素的な傾向が強く、畜産や農業、家庭排水などの影響により富栄養化した土壌などでより繁殖し、優先種となる傾向が強い。万葉集における「やえむぐら(八重葎)」は、アカネ科のヤエムグラではなく本種を指していると思われる。